

かぼちゃ調査方法

1 試験区ならびに調査対象株数及び面積

項 目		必要株数(最少株数)	必要面積(最小面積)*
試験区(1区当り)		6株(5株)	14.4㎡(12㎡)
調査対象(1区当り)	生育調査等	4株(3株)	9.6㎡(7.2㎡)
	収量調査等	4株(3株)	9.6㎡(7.2㎡)

*栽植密度を畝幅300cm×株間80cm、a当り41.7株としたときの面積

2 耕種概要

項 目		単 位	備 考
栽植密度	株数	(株/a)	
	畝幅	(cm)	
	株間	(cm)	
1区面積		(m ²)	
反復数		(反復)	
播種期		(月 日)	
定植期		(月 日)	
前作物			
堆肥施用		(kg/a、 月 日)	
基肥量	N	(kg/a)	
	P ₂ O ₅	(kg/a)	
	K ₂ O	(kg/a)	
追肥量	N	(kg/a)	
	P ₂ O ₅	(kg/a)	
	K ₂ O	(kg/a)	
追肥施用日		(月 日、 月 日)	
土壌区分			
土性			
腐植			
マルチの種類			農ポリ、生分解性、色など
仕立て方法			親蔓1本、子蔓2本、放任(短節間品種)
目標着果節位		(子蔓あるいは親蔓の第 節)	
除草剤・病虫害防除		(薬剤名、 月 日)	

3 生育調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査
出芽	期	播種粒数の50%が出芽した日	B	観察	月日	1
	率	ポット苗では鉢上げ時、セル苗では播種1週間後、直播では播種2週間後に調査	B	算出	%	0.1
定植時の苗質 (移植栽培のみ)	胚軸長	地際から子葉着葉部位まで	B	測定	cm	0.1
	胚軸径	地際と子葉着葉部位の中間の直径	B	測定	mm	0.1
	茎長	胚軸を除く	B	測定	cm	0.1
	茎径	第2節間(第1葉と第2葉の間)の直径	B	測定	mm	0.1
	最大葉長	最大葉の葉身長	A	測定	cm	0.1
	最大葉幅	最大葉の葉身幅	B	測定	cm	0.1
	葉数	葉長2.5cm以上の葉	A	測定	枚	1
初期生育 *1	つる長	親蔓もしくは最強子蔓で測定	A	測定	cm	1
	葉数	親蔓もしくは最強子蔓の葉長2.5cm以上の葉	A	測定	枚	1
開花始	雄花	区における最初の開花日	A	観察	月日	1
	雌花	目標着果節位の区における最初の開花日	A	観察	月日	1
着果節位		第一果の着果節位	A	測定	節	1
着果始		第一果が着果した日	B	観察	月日	1
収穫	始	果梗のコルク化程度が円周の70%以上になった果実を収穫した日、終了した日	B	観察	月日	1
	終		B	観察	月日	1
	平均	全果実の収穫日の平均	A	算出	月日	1
成熟日数		開花から収穫までの日数の平均	B	算出	日	1
草勢		5(強)~3(標準品種)~1(弱)	A	観察	指数	1
葉の色・斑入り		5(濃)~3(標準品種)~1(淡) (斑入りは記載)	B	観察	指数	1
葉の大小		5(大)~3(標準品種)~1(小)	B	観察	指数	1
葉の欠刻		5(多)~3(標準品種)~1(小)	B	観察	指数	1
障害	うどんこ病	0(無)、1(微)、2(少~中)、3(多)、4(甚)	B	観察	指数	1
	その他	”(障害の種類を付記)	B	観察	指数	1

*1 (定植20日後、もしくは播種45日後)

4 収量調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査	
収量 a当たり	個数	良果	出荷基準による(青果用は900g以上)	A	測定	個	1
		不良果	小果(900g未満)、変形果、蔓傷果、日焼け果、癒傷コルク化症状(通称ガンベ)	A	測定	個	1
		計	良果+不良果	A	算出	個	
	重量	良果	上記参照	A	測定	kg	1
		不良果	上記参照	A	測定	kg	1
		総収量	良果+不良果	A	算出	kg	
良果収量割合		(良果収量/総収量)×100	A	算出	%		
平均一果重		総収量/個数計	B	算出	kg	0.01	
不良果、未熟及び 障害果の個数割合	小果	(各個数/全収穫果数)×100	B	算出	%	1	
	変形果		B	算出	%	1	
	蔓傷果		B	算出	%	1	
	日焼け果		B	算出	%	1	
	癒傷コルク化		B	算出	%	1	
	未熟果		B	算出	%	1	
	病虫害		B	算出	%	1	
	その他		B	算出	%	1	

5 果実特性調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査
果形		球、長球、円筒、扁平、扁円、腰高、心臓、短紡錘、紡錘 等	A	観察		
果皮色		黒緑、濃緑、緑、灰緑、灰白、白、橙、混	A	観察		
果実の大きさ・形	果高	果梗部から花痕部までの長さ	B	測定	cm	0.1
	果径	果実赤道部の最大幅	B	測定	cm	0.1
	果形比	果高/果径	B	算出		
花痕部径		長径	B	測定	cm	0.1
肉厚	赤道部		B	測定	cm	0.1
	花痕部		B	測定	cm	0.1
果肉色		5(濃)~3(標準品種)~1(淡)	B	観察	指数	1
カット調理時の評価	外観	5(良)~3(標準品種)~1(不良)	B	観察	指数	1
	硬さ	5(硬)~3(標準品種)~1(軟)	B	官能	指数	1
	粉質程度	5(強)~3(標準品種)~1(弱)	B	官能	指数	1
	甘味	5(強)~3(標準品種)~1(弱)	B	官能	指数	1
	食味	5(良)~3(標準品種)~1(不良)	B	官能	指数	1

注)内部品質については、収穫後にキュアリングを行ってから調査する。

6 調査試験栽培上の留意点

1) 規格は900g以上を良果とした。2.5kgを超えた果実を加工用として利用可能だが、良果に加えるかどうかは地域での事情を考慮する。

2) つる性品種では着果揃い後に、短節間性品種では開花期頃に分追肥を行い後半まで草勢維持に努める。

基肥のみの施肥体系では、化学肥料の一部を有機質肥料や緩効性肥料で代替する。

3) 果実品質は、収穫後2週間程度のキュアリングを行った後に調査する。

但し、乾物率が高く粉質感が高い品種については1~2ヶ月程度貯蔵した後に評価する方が良い場合があることに留意する。

貯蔵温度は10℃が適しており、低い場合(例、5℃)や高い場合(例、15℃)では貯蔵腐敗の進行が早くなるので注意する。

4) (カット調理例)1.0~1.5cm厚の大きさに切った果実片を電子レンジで加熱し、竹串を刺して火が通ったことを確認して供試する。

5) 葉の色、大小、欠刻の調査基準については、[農林水産省品種登録ホームページ](#)の「農林水産植物種別審査基準—かぼちゃ属」を参考にする。

但し、色は濃緑(7を5に)~淡緑(3を1に)と読み替える。同様に、大小は大(7を5に)~小(3を1に)とし、欠刻は深(7を5に)~浅(3を1に)とする。